

※今月のみ受注の書目です。

フェミニズム／サイエンス・ノンフィクション

ピリオド

月経



平積み

どこまで解明されているのか (仮) (2025年7月中旬刊行予定)

ケイト・クランシー (イリノイ大学人類学部教授) [著] /

坪子理美 (翻訳家) [訳]

四六判並製 / 304頁 税込予価 3,960円 ISBN978-4-7664-3042-4 C3036

👉 ココに注目!

- ・ 月経について科学的な解明に基づき徹底的に探求、誤解や偏見を解く。
- ・ 西洋・白人女性を「ノーマル」とした概念を脱し、生理メカニズムの多様性を明らかにする。
- ・ 男女ともに月経に向き合うために、社会に必要なことを問う。

ピリオド

「月経」は、女性差別において長い歴史を持ち、男性中心の科学分野でも偏見にさらされてきた。人類学者である著者は、最新の医学研究やフィールドワークによってその多様性を検証し、家父長制と植民地主義的な価値観が、私たちの身体理解にどう影響を及ぼしてきたかを明らかにしつつ、月経の拓かれた未来のために大胆な展望を示す。

対象 一般 (人体の仕組み / 人体と社会の関係性に関心のある読者)

類書 アヌシェイ・フセイン『女性の痛みはなぜ無視されるのか』(晶文社)

【営業部からのおすすめポイント】

月経に関する誤解は、古代宗教や中世の迷信などに端を発し、「不浄」や「恥」といったイメージが禁忌や性教育の不足とともに根づいてきた歴史があります。近年では、女性の健康課題をテクノロジーで支援する「フェムテック」が発展し、月経を可視化記録する仕組みが広がったことで、社会の認識の是正を促す活動も活発に進められています。月経に関する歴史的な背景や、今起こっている変化について網羅できる1冊です。ぜひ平積みでの展開をご検討下さい! (吉川)

👉 主要目次、注文書を裏面に掲載! ぜひご確認ください!

【主要目次】

はじめに

序章 なぜ今「月経の科学」が必要なのか

第1章 科学に潜む英雄神話

第2章 「標準的（ノーマル）」な月経周期は存在しない

第3章 エネルギーと月経——「女性の虚弱さ」という神話

第4章 免疫と月経——「月経の衛生」という神話

第5章 ストレスと月経
——社会的疎外、性的ハラスメント、脂肪のスティグマ

第6章 月経の未来——変動を受け入れる余地をもつ世界

おわりに



ご注文は FAX で！ 03 - 3451 - 3124



番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
新刊委託		ケイト・克蘭シー 著／坪子理美 訳 ピリオド 月経 —どこまで解明されているのか(仮) ISBN978-4-7664-3042-4 C3036	3,960 円	★★★★★

★1つで「500部」を表します